

ほほえみだより

令和4年5月号

松伏町学校給食センター TEL992-2161 FAX992-3192 (244号)

学校給食では、季節ごとの行事食を取り入れています。行事食を食べることは、季節を感じ日本の伝統文化を知るきっかけになります。ご家庭の食事でも行事食を取り入れてみてはいかがでしょうか。

5月5日は、何の日？

こどもの日



1948年に「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」ための国民の祝日、と決められました。

端午の節句



こどもの日が決められる前から、端午の節句はありました。「端午」とは、中国で「月初めの午の日」という意味があり、もともとは悪い日でした。そこで、災いをはらうために、菖蒲湯に入り、かしわもちやちまきを食べて、男の子の健やかな成長と幸せを願います。「菖蒲」が「尚武・勝負」に通ずることから、江戸時代に男の子の節句となりました。

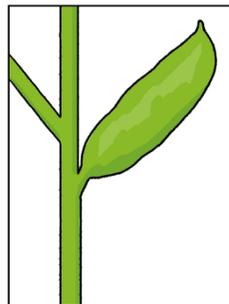
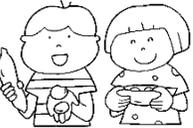


端午の節句に食べるお菓子というと、「かしわもち」が定番です。かしわの葉は新芽が出るまで古い葉が落ちないことから「家が途切れない」という縁起を担いで使われるようになりました。かしわもちのほかに、

関西地方などで「ちまき」、新潟県で「三角ちまき」や「笹だんご」、鹿児島県や宮崎県、熊本県の南部で「あくまき」、北海道や青森県の一部で「べこもち」、長野県や岐阜県の山間部で「朴葉巻き」を食べるそうです。



17日に、小学生がさやおきをしてくれた「空豆」が給食に出ます。



空に向かって実がなることから、「空豆」と名付けられたと言われています。また、さやが蚕に似ていることから「蚕豆」と書いて、「そらまめ」と読むこともあります。旬の食べ物は栄養がいっぱいです。